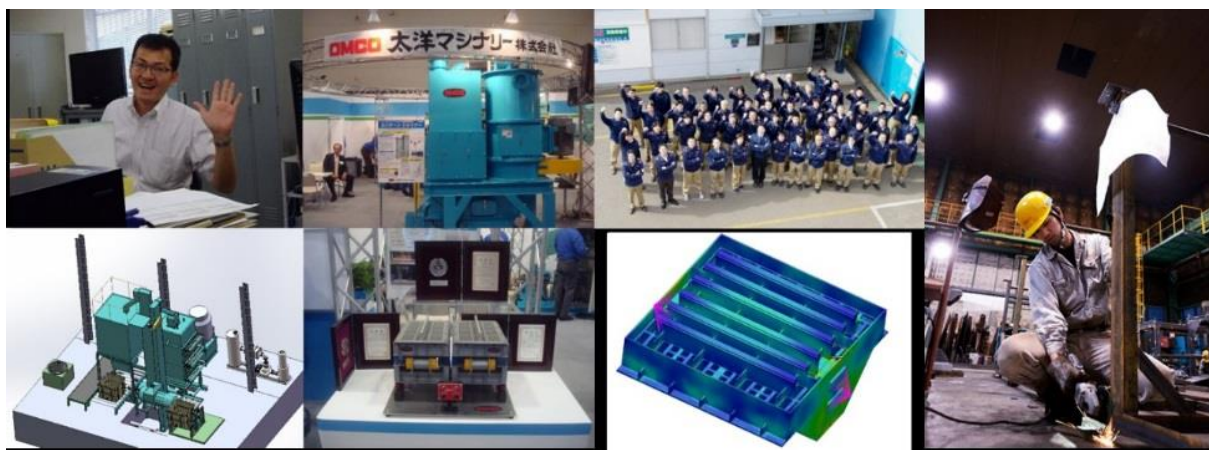




太洋マシナリー株式会社

2023年度 環境経営レポート

(対象期間: 2022年12月1日から2023年11月30日)



目 次

項 目	
ごあいさつ	P3
環境経営方針	P3
組織の概要	P4
事業や製品(商品)の紹介	P5
環境経営組織図及び役割・責任・権限表	P6
主な環境負荷の実績	P6
環境経営目標及びその実績	P7
環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の環境経営計画	P7～9
環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟等の有無	P10
緊急事態対応の試行・訓練	P10
代表者による全体の評価と見直し・指示	P10



ロングアームミキサー

高精度精砂選別機
ハイバウンドスクリーン

□ごあいさつ

昭和2年、鑄造工場用大規模プラントなど各種設備機械から、粉粒体混合機、それらを運搬する空気輸送装置、さらには省エネ型キューボラなど、鑄造用の産業用機械・製品の設計・製作・販売をわが国で初めて手がけました。

当社が送り出す製品の数々は、この分野の草分けにふさわしい高品質なものとして、業界から絶賛をいただいております。また近年ではそれらの技術を応用し、産業廃棄物の選別機械の分野にも進出、大量の廃棄物を選別処理できる機械メーカーとして廃棄物処理業界からも深く信頼いただいております。

これらの歴史に甘んずることなく、お客様にさらなる満足をもたらすため、製品と会社経営の二つの側面から地球環境への貢献を志しました。よりエネルギー効率に優れた鑄造設備。より高精度な廃棄物選別機械。さらに新しい市場の新しいお客様に新たな喜びを抱いていただける何かを。私たちはこの美しい地球環境とともに、そのような製品をお客様に届け続けていきたい。そんな思いとともに環境経営への取り組みを始めます。

環境経営方針

【基本理念】

わたしたち太洋マシナリー株式会社は、持続可能な社会の実現を目指す国際目標(SDGs)の達成に貢献するため、事業を通じた社会的な価値の創出に引き続き努めていきます。

すなわち、わたしたちの事業活動における環境効率を向上するとともに、鑄造をはじめとするものづくり及びリサイクル等の循環型社会の工程を、社会・経済・環境のあらゆる観点から持続可能なものとして構築するため、自主的、積極的、継続的に行動します。

【行動指針】

1) 環境関連法規の遵守

事業活動にあたって、法規制、条例を遵守します。

2) 装置開発を通じた環境貢献

- ①環境事業の推進により、循環型社会の構築に貢献します。
- ②装置の効率向上により、お客様のエネルギー消費量を削減します。
- ③ 政府方針のカーボンニュートラルの一助を担います。

3) 資源・エネルギーの効率的活用

事業活動にあたって、資源およびエネルギーの有限性を深く認識し、それらを効率的に利用し、リデュース(廃棄物の発生抑制)・リユース(材料等の再使用)・リサイクル(材料等の再生利用)の徹底に取り組み、環境負荷の低減と環境汚染の予防に努めます。

- ①創意工夫による省エネルギーにより二酸化炭素排出量の削減に努めます。
- ②社用車運行のガソリン使用に際し、燃費の向上を目指します。
- ③鋼材の有効利用およびリサイクルをはじめ、廃棄物等の発生抑制に努めます。
- ④適正な利用により水使用量の削減に努めます。
- ⑤塗料等の化学物質の適正管理に努めます。
- ⑥出荷時の梱包資源のリユースを推進します。

4) 環境方針の周知と公開

全従業員(役員、嘱託社員ほか当社社内外注を含む)に対し環境教育等の啓発活動を行い、環境方針の周知徹底を図るとともに、社外への公開を行います。

2016年7月9日制定

2024年1月22日改訂

太洋マシナリー株式会社
代表取締役社長 渡辺 兼三



□組織の概要

更新日：2024年1月10日

- (1) 名称及び代表者名
太洋マシナリー株式会社
代表取締役社長 渡辺 兼三
- (2) 所在地
(本店) 大阪府大阪市淀川区西宮原3丁目3番地19号
本社工場 大阪府大阪市大正区鶴町4丁目1番7号
泉尾工場 大阪府大阪市大正区泉尾6丁目4番14号
東部営業部 東京都港区芝5丁目1番9号(豊前屋ビル3F)
中部営業部 愛知県名古屋市中川区伏屋2丁目412番
西部営業部 大阪府大阪市淀川区三国本町2丁目18番43号
広島営業所 広島県広島市西区横川新町8番25号(広島県鋳物会館ビル)
- (3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先
責任者 取締役 山中 徳行 TEL: 06-6394-1101
担当者 総務課 吉田 香央梨 TEL: 06-6556-1601
- (4) 事業内容
鋳造用生産設備機械、環境用産業廃棄物選別装置、振動機の設計・生産・販売
- (5) 事業の規模
売上高 34億7767 万円 (2023年度実績)
- | | 本社工場 | 泉尾工場 | 東部営業部 | 中部営業部 | 西部営業部 | 広島営業所 | 合計 |
|----------------------|---------------------|---------------------|--------------------|-----------------------|--------------------|-------------------|-----------------------|
| 従業員 91 名 | 62 名 | 0 名 | 11 名 | 6 名 | 9 名 | 3 名 | 91名 |
| 延べ床面積 m ² | 2310 m ² | 1650 m ² | 165 m ² | 118.26 m ² | 145 m ² | 90 m ² | 4478.26m ² |
- (6) 事業年度 (対象期間: 2022年12月1日から2023年11月30日)

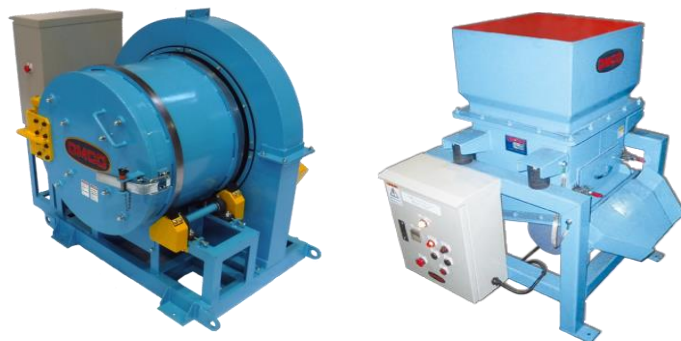
□認証・登録の対象組織・活動

登録組織名: 太洋マシナリー株式会社
対象事業所: 本社工場
泉尾工場
東部営業部
中部営業部
西部営業部
広島営業所

活動: 鋳造用生産設備機械、環境用産業廃棄物選別装置、振動機の設計・生産・販売



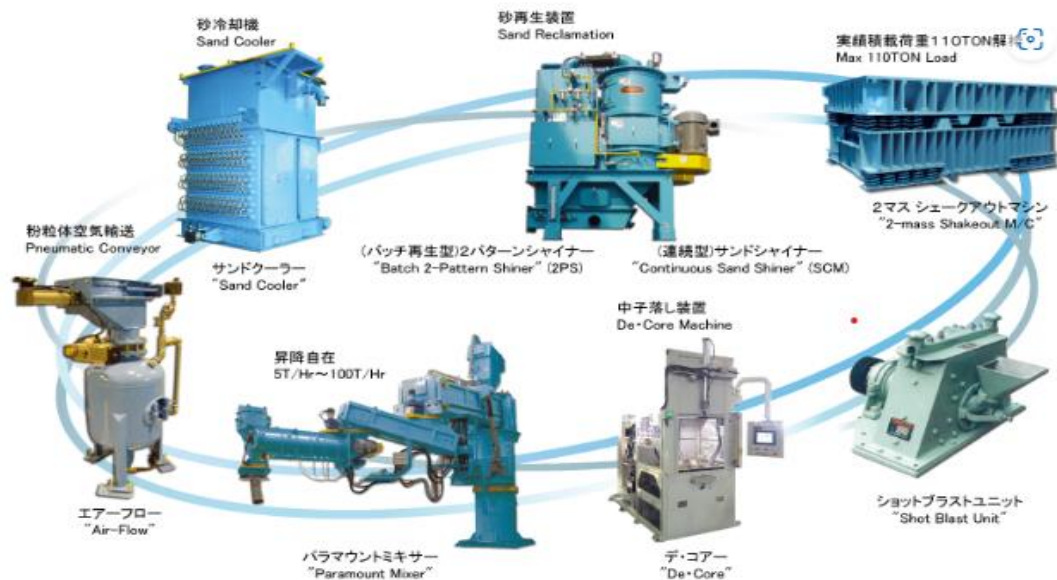
移動式(トラック脱着式) 廃棄物選別装置



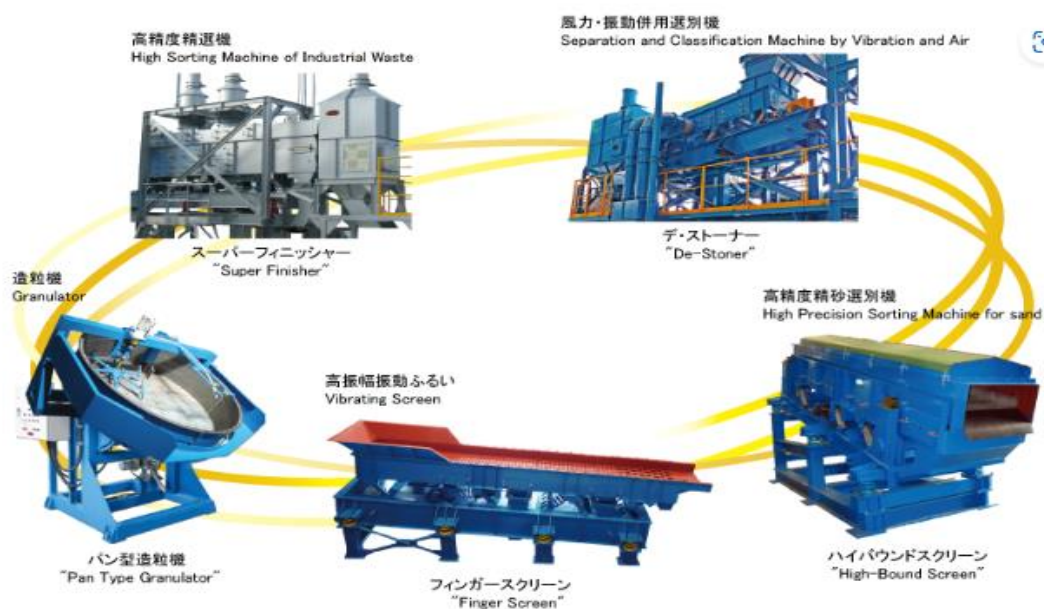
ミニミニシリーズ

事業や製品(商品)の紹介

鑄造分野(鑄造工場用設備機械の製造並びに販売)

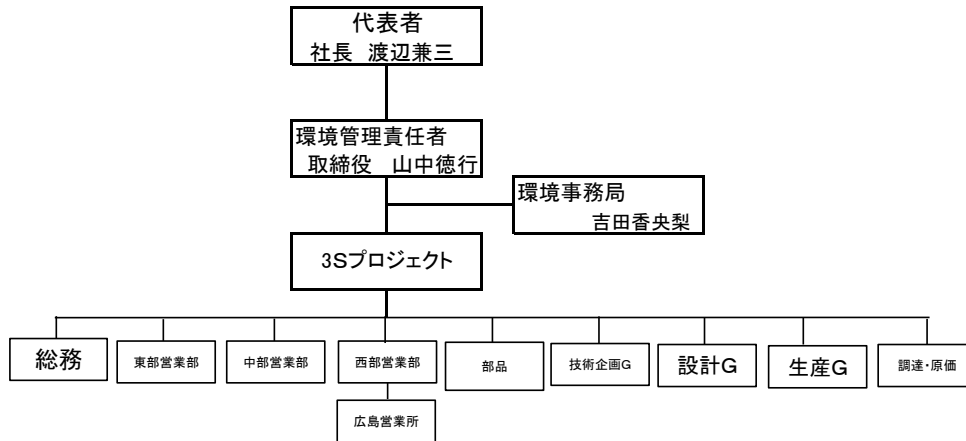


環境分野(産業廃棄物の選別装置・処理装置の設計・製作並びに販売)



□環境経営組織図及び役割・責任・権限表

更新日：2022年12月1日



	役割・責任・権限
代表者(社長)	・環境経営に関する統括責任 ・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間等経営資源を準備 ・環境管理責任者を任命 ・環境経営方針の策定・見直し ・環境経営目標・環境経営計画書を承認 ・代表者による全体の評価と見直し、指示 ・環境経営レポートの承認
環境管理責任者	・環境経営システムの構築、実施、管理 ・環境関連法規等の取りまとめ表を承認 ・環境経営目標・環境経営計画書を確認 ・環境活動の取組結果を代表者へ報告 ・環境経営レポートの確認
環境事務局	・環境管理責任者の補佐、の事務局 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 ・環境経営目標、環境経営計画書原案の作成 ・環境活動の実績集計 ・環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理 ・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・環境経営レポートの作成、公開(事務所に備付けと地域事務局への送付)
3Sプロジェクト	・環境経営計画の審議 ・環境活動実績の確認・評価
部門長	・自部門における環境経営方針の周知 ・自部門の従業員に対する教育訓練の実施 ・自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告 ・自部門に必要な手順書の作成及び手順書による実施 ・自部門の想定される事故及び緊急事態への対応のための手順書作成 ・試行・訓練を実施、記録の作成 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
全従業員	・環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

□主な環境負荷の実績

項 目	単位	2021年度	2022年度	2023年度
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	183,164	179,006	165,683
廃棄物排出量				
一般廃棄物排出量	kg	864	847	798
産業廃棄物排出量	kg	44,090	18,300	34,690
水使用量	m ³	933	904	665

※二酸化炭素排出係数 0.574 kg-CO₂/kWh au電気(2022年度調整後) 係数0.574

□環境経営目標及びその実績

年 度		基準値	2023年度	環境経営レ	評	2024年度	2025年度
項 目		(基準年)	(目標)	(実績)	価	(目標)	(目標)
電力使用量の削減	KWh	240,694	223,845	159,890	○	221,438	219,032
	基準年度比	2016年	93%	66%		92%	91%
燃費の向上	km/ℓ	11.79km/ℓ	12.38km/ℓ	13.74km/ℓ	○	12.50km/ℓ	12.62km/ℓ
	基準年度比	2018年	105%	117%		106%	107%
上記二酸化炭素排出量合計		kg-CO2	183,164	179,006	165,683	-	-
廃金属の削減	kg	42,050	42,050	15,540	○	42,050	42,050
	基準年度比	2016～2018	100%	37%		100%	100%
水道水使用量の削減	m ³	1,151	1,151	665	○	1,151	1,151
	基準年度比	2016年	100%	58%		100%	100%
溶剤使用量適正管理		(別紙)					
設計による不適合品の低減		行動目標(次項による)					

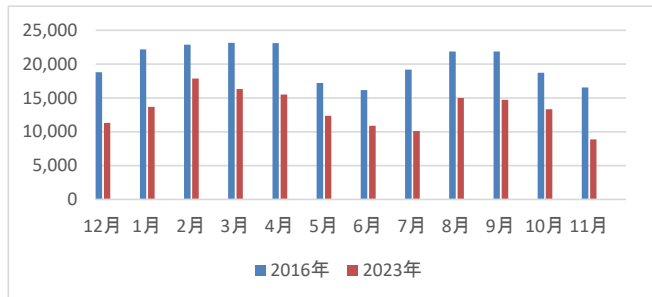
注 廃金属の削減は3年平均値を用いる。基準値(2016年～2018年)、実績値は直近3年の平均値。

□環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の環境経営計画

数値目標:○達成 ×未達成

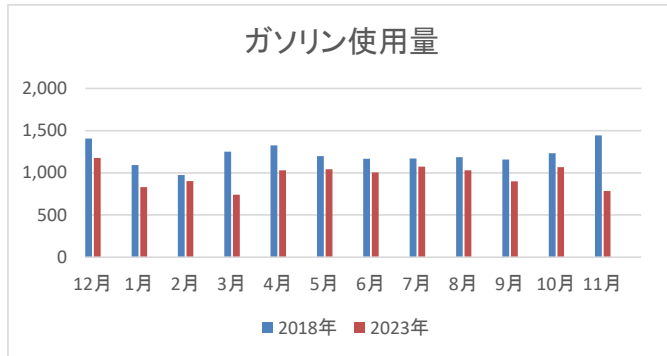
活動:◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

電力使用量の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	10月に本社工場内の蛍光灯入替、11月に部品倉庫内入替。残る
・エアコン室外機の定期点検・清掃	○	蛍光灯は総務建物内・ミーティングルーム階段のみ。LED入替後
・不要照明の消灯・エアコンの停止	○	の電力使用量は、データが十分ではないので、来年度の数値に
・LED照明の導入検討	○	期待。
・空気圧縮機の適性化およびエア洩れ点検	○	昨年度は12カ月中1カ月のみ(11月)目標値クリアできなかった
		が、本年度は全ての月で目標値をクリアできた。

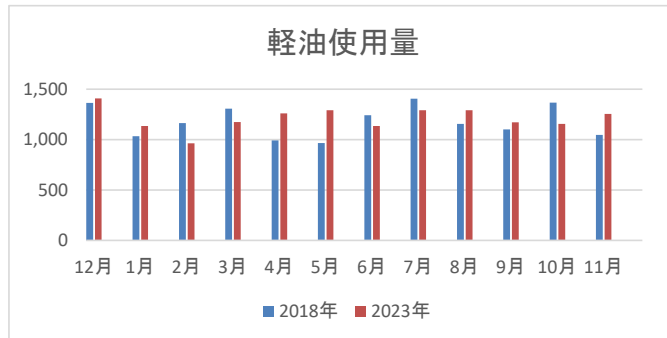


	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
2016年	18,792	22,163	22,862	23,126	23,089	17,204	16,171	19,203	21,862	21,862	18,724	16,550
2023年	11,292	13,659	17,862	16,328	15,507	12,355	10,866	10,117	15,009	14,710	13,334	8,851

燃費の向上	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	今年度は、1年の累計値、さらに1/4半期ごとの目標値と全てクリアできた。特に西部営業部の社用車は4台すべてハイブリット車になっているため、平均燃費は22.5km/ℓと好調に推移している。
・アイドリングストップなどのエコ運転促進	○	
・公共交通機関の利用促進	○	
・燃費を計算し、関連部署・従業員へ掲示	○	



	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
2018年	1,407	1,093	973	1,250	1,324	1,198	1,166	1,170	1,184	1,156	1,233	1,444
2023年	1,176	830	901	740	1,029	1,043	1,006	1,074	1,028	898	1,068	785

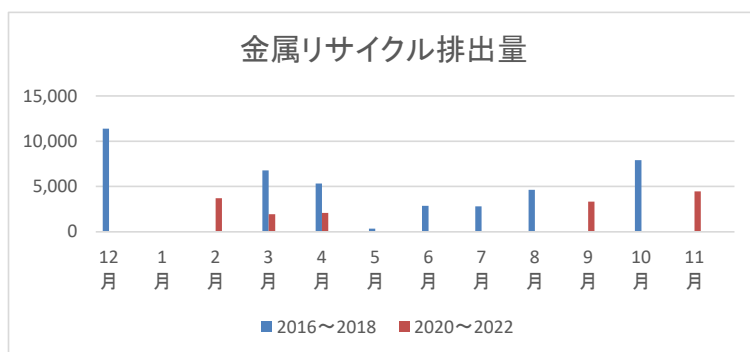


	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
2018年	1,363	1,034	1,163	1,306	992	966	1,241	1,407	1,155	1,101	1,366	1,047
2023年	1,409	1,134	964	1,175	1,260	1,292	1,135	1,292	1,291	1,172	1,155	1,254

燃費の推移

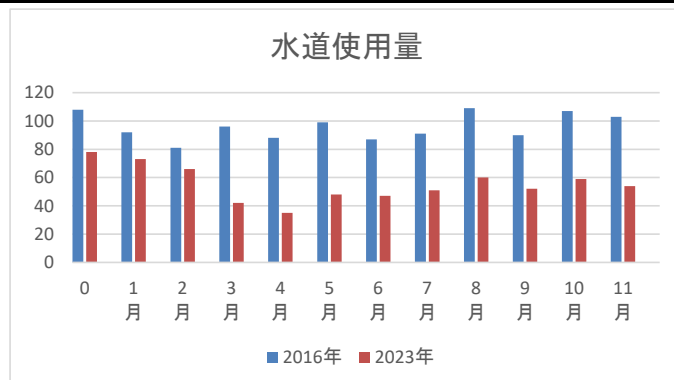
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度平均
2018年	12.46km/ℓ	11.62km/ℓ	12.02km/ℓ	10.57km/ℓ	11.79km/ℓ
2023年	14.09km/ℓ	12.88km/ℓ	14.50km/ℓ	13.51km/ℓ	13.74km/ℓ

廃金属の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	今年度は、期末に泉尾工場に保管していたスクラップ(客先撤去品等)の整理をしたため、11月の廃金属排出量が昨年と比べ大きく増えた。
・作業ミスによる廃棄量の削減	○	
・金属リサイクル時の価額向上	○	
・鋼材在庫の確認と情報共有	○	



	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	合計
2016～2018	11,373	0	0	6,767	5,327	360	2,870	2,820	4,627	0	7,907	0	42,050
2020～2022	0	0	3,717	1,940	2,090	0	0	0	0	3,340	0	4,453	15,540

水道水使用量の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	全ての月で大幅に目標値をクリアできた。トイレ改修によるトイレ掃除方法の変更・洗濯機の入替え等の要因も大きいだろうが、こまめに蛇口を止めるなど個々の取組の積み重ねの効果も大きいと考える。引き続き、節水の啓蒙活動(ポスターや水道使用量の掲示)によって節水への意識付けやモチベーション維持に努めたい。
・節水シールの貼り付けとポスター掲示	○	
・日常的な節水の啓蒙	○	



	0	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	合計
2016年	108	92	81	96	88	99	87	91	109	90	107	103	1,151
2023年	78	73	66	42	35	48	47	51	60	52	59	54	665

溶剤使用量適正管理	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	-	有機溶剤は適正に管理されている。SDS2種取り寄せ済。
・安全データシートの備付	○	
・発注量の適正化	○	
・在庫管理による不良在庫の削減	△	

設計による不適合品の低減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
行動目標	○	今期DR(開発の手戻りを未然防止するために実施する設計審議会)回数132回、設計責任品質不良件数は45件だった。
DR実施の徹底	○	
設計責任による品質不良件数の低減	○	

□環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟の有無
法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りです。

適用される法規制	適用される事項(施設・物質・事業活動等)	順守評価
廃棄物処理法	排出者:一般廃棄物、産業廃棄物(廃プラ、紙くず、木くず、金属屑他)	○
消防法(危険物)	少量危険物の保管	○
フロン排出抑制法	エアコン機器	○
労働安全衛生法	SDS義務物質	○
顧客要求事項	品質管理	○

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。
なお、違反、訴訟等も過去3年間ありませんでした。

□外部からの環境上の苦情・要請等
苦情はなかった

□緊急事態対応の試行・訓練

緊急事態の想定: 火災の発生	
■実施日: 2023年7月7日	■実施場所: 本社
■参加者: 本社所属の全社員	■実施内容: ・避難訓練
■評価: 消防署員の監督のもと、通報訓練・避難訓練・消火訓練を行った。	手順書の変更の必要性 ☐ あり ☒ なし
■実施状況の様子	
	昨年に引き続き、本年も消防署員監督の元、消防訓練を実施した。消火訓練(消火器の取扱い)は、新しく入った社員を中心に実施した。

□代表者による全体の評価と見直し・指示

実施日: 2024年2月15日

今年度は全ての項目で、目標値をクリアできた。「政府方針のカーボンニュートラルの一助を担います」の文言追加
社用車の燃費は、昨年度に続き目標値を大幅に達成することができた。2023年2月に西部営業部の車を1台ハイブリット車に変更した効果も大きかったと思われる。
設備改修では、1～5月トイレ/シャワールーム、10月本社工場のLED変更、ミーティングルーム改修を行った。新しい設備の入れ替えによる節電・節水効果、活動記録の掲載による啓蒙活動の相乗効果により電気・水道使用量がうまく抑えられた。
来年度も同様にすべての項目で目標値クリアし、従業員の環境への取り組み姿勢向上を目指す。

- | | | |
|-----------|--|---|
| 環境経営方針 | ☐ 変更なし | ☒ 変更あり 「政府方針のカーボンニュートラルの一助を担います」の文言追加 |
| 環境経営目標・計画 | ☒ 変更なし | ☐ 変更あり |
| 実施体制他 | ☒ 変更なし | ☐ 変更あり |